

多治見市火葬場 華立やすらぎの杜



北側調整池(修景池)越しの外観

review 選評

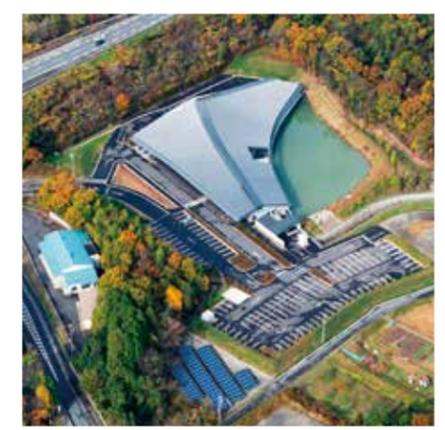
岐阜県多治見市の大屋根で包まれた水と杜の葬祭場である。周囲の森にそと伏せる大屋根で包まれた火葬場・斎場をつくり、周りの緑や山々になじみ、火葬場という建物を感じさせず、施設を利用する会葬者に、より自然な形でやすらぎや親しみを感じられる家のような葬祭場である。

建築は、大屋根による炉等の必要高さを確保しながら軒先高さを抑えた二次元形状とし、炉煙突が露出しないよう包含され、外部や内部からの視線の抑制と開放的で明るい内部空間を両立させている。内部空間は、キールトラスによる約三四メートル×三〇メートルの無柱空間とし、浮遊する大屋根をガラス壁で仕切ること、火葬場の各施設や斎場の開放感、一体感を高めるようにしている。大屋根の材料

は、瓦と金属屋根で葺かれ、金属板により止水性、機能性を確保し、縦葺金属屋根の瓦棒部分を直線状に本瓦を配置することで、多治見らしさを表現している。

火葬場には六基の火葬炉があり、一炉毎に告別から収骨までを行えるお別れ室を設け、遺族の方が安心してお別れに集中できる個性の高いスペースとしている。また、葬祭の形に合わせて、六室のお別れ室の間に設けられた前室や、池に面した待合室や待合ロビーなど様々な待合スペースを設けている。同時に池を望む開放的な斎場も設け、移動間仕切りによって多目的に利用できるようにしている。構造は、キールトラスの両端を躯体部分に乗せ、屋根受けの直線の梁をトラスから様々な角度で屋根端に向けて放射状に配置し、鉛直力のみを受ける屋根端の柱には、大屋根の熱や変形を吸収するすべり機構を設けている。

環境は、自然エネルギーを積極的に取り込み、太陽光発電の利用と共に大空間上部にハイサイド窓を設け、自然光を取り込むことにより照明負荷を低減している。また、ハイサイド窓を換気窓として上昇気流を利用した自然換気、昼夜の温度差を利用したナイトパージにより冷房エネルギーを削減している。天井の高い式場やエントランスホールは、床幅射冷暖房を採用し、床吹出による居住域空調により効率的な空調としている。



自然豊かな敷地に溶け込む葬祭場



BCS賞は、建築の事業企画・計画・設計、施工、環境とともに、供用開始後1年以上にわたる建築物の運用・維持管理等を含めた総合評価に基づいて選考し、建築主・設計者・施工者の三者を表彰する建築賞です。この賞は、1960年にはじまり2018年で59回を数えます。

〔2018年 第59回 BCS賞受賞作品〕太田市美術館・図書館／高知県立高知城歴史博物館／コープ共済プラザ／新豊洲Brillia ランニングスタジアム／すみだ北斎美術館／洗足学園音楽大学 Silvermountain&Redcliff (e-cube)／空の森クリニック／高崎アリーナ／多治見市火葬場華立やすらぎの杜／立川市立第一小学校・柴崎学習館・柴崎図書館・柴崎学童保育所／デンソーグローバル研修所・保養所「AQUAWINGS」／日本無線先端技術センター／パナソニック スタジアム 吹田／羽田クロノゲート／益子町地域振興拠点施設「道の駅まほろ」／〔特別賞〕名駅一丁目計画 (JRゲートタワー、JPタワー名古屋)



建築主より

Message from Building owner

多治見市長

古川雅典 Masanori Furukawa

『心の和む空間、安らぎを与える尊厳のある施設(葬送の場)』として

「華立やすらぎの杜」は、当初から地元で激しい反対運動が起きました。約3年に及ぶ協議の中で、要望実現に向けて真摯な取組みをし、理解を得ることができました。

特に地元の皆さんからの要望は、①火葬場らしくない斬新かつ自然に溶け込んだデザインとすること、②利用者に安らぎを与えられるよう修景池を利用した癒しの空間とすること、③環境への負荷を最大限抑えることができる最新の火葬炉とすること——でした。

今回、こうした取組みや、瓦と金属板とのハイブリッド屋根で3D構造を実現したこと、地場産材である美濃焼タイルをふんだんに使用して「多治見らしさ」を実現できたことなどが高い評価につながりました。

今後も、周辺環境に配慮した施設管理に努め、地元の皆さんとより良い関係を築きながら地元根付いた運営を行ってゆきます。



設計者より

Message from Building designer

株式会社久米設計
建築設計部 主管

海老原靖子 Yasuko Ebihara

周辺環境と親和する、明るく安らぎのある「水の杜の葬祭場」を目指して

当設計は2013年初頭に設計エスキスにて選定されました。私たちは、周辺環境へ配慮した建物高さや親和する景観の構築、周辺の緑や水を活かした明るい内部空間による様々な会葬者への癒しや配慮、多治見らしさを感じる風景づくりを重視し、華立の杜に伏せる大屋根を設け、葬祭場を包むことで、それらを実現することを提案いたしました。

設計段階では市や関係の皆様と一緒に、1炉1室型のお別れ室のあり方やタイルの活用など様々な課題を協議し、当初の考え方をより強化することができました。更に施工段階ではそれを精度よく実現していただきました。完成した建物は、私たちがエスキスで提案し、大切に設計の意図を反映した新しい葬祭の場となったのではないかと思います。

今後とも、多治見の皆様にも末永く寄り添う葬祭の場となることを願っています。



施工者より

Message from Builder

株式会社熊谷組
名古屋支店 建築事業部建築部 愛知工事部 作業所長

水谷浩 Hiroshi Mizutani

3次元形状の大屋根を忠実に再現

この建物の工事にあたり施工者に求められた課題は、いかにこの瓦と金属板で構成されたためらかな3次元形状の屋根を実現するかでした。

そのために3D CADを利用して、屋根を支える40m超の湾曲したキールトラスと、そこから様々な角度に伸びる魚骨状の屋根梁・母屋等の解析・検討を重ねて、施工精度を高めました。

更にモックアップ等により細部の検証・試行錯誤を繰り返して、周囲の自然環境に馴染む大屋根を完成させることができました。

キールトラスによってもたらされた内部の無柱空間には、多治見市の特産であるタイルが床・壁にふんだんに使われています。タイル素材の魅力を最大限発揮できるよう建築主・設計・施工が三位一体となつてものづくりに取り組みました。

今回これらの結果が評価されてBCS賞を受賞したことは大変光栄です。



1. 修景池／杜へ連続する癒しの場 2. 自然光を取り込む大屋根下部の空間
3. 遺族が専用利用可能なお別れ室 4. 修景池に面した明るい式場

| 多治見市火葬場 華立やすらぎの杜 計画概要 | |
|-----------------------|--------------------------|
| ● 建築主 | 多治見市 |
| ● 設計者 | 株式会社久米設計 株式会社比野建築デザイン |
| ● 施工者 | 株式会社熊谷組 |
| ● 所在地 | 岐阜県多治見市大藪町 上迫間洞249 |
| ● 竣工日 | 2016年3月18日 |
| ● 敷地面積 | 20,121㎡ |
| ● 建築面積 | 3,409㎡ |
| ● 延床面積 | 2,939㎡ |
| ● 階数 | 地上2階 |
| ● 構造 | 鉄筋コンクリート造、鉄骨造 |

「選考委員」西沢立衛・堀場弘・田中隆吉

この葬祭場は、大屋根の構造と内部の平面計画との考え方の課題はあったものの、地域の新しい火葬場のあり方を提言し、建築主、設計者、施工者が一体となつて創り出した質の高い建築として優れた作品である。

維持管理は、機能性の高い火葬炉と実績豊富な指定管理者によりスムーズな運営が行われており、利用者からは火葬場のイメージを変えたとの評価を受けている。

施工は、三次元形状の大屋根の鉄骨製作の製作精度、現場施工性、キールトラスの意匠的な見え方の確認のため仮組検査を行い、すべて鉄骨が組み上がった後にキールトラスをジャッキダウンする建て方とし、局部的な応力が発生しないよう行い変形量は許容値に収めている。また、鉄骨の建て方精度が直接にカーテンウォールの施工に影響するため、三次元形状を持つ鉄骨製作では、3D CADを活用している。